

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100049		
法人名	社会福祉法人 桐紫会		
事業所名	グループホームあべの		
所在地	青森県青森市大字幸畑字阿倍野163番地112		
自己評価作成日	令和元年10月25日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域との交流を持ちながら、花と自然に囲まれた中で笑顔の絶えない生活を支援する。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>同法人で経営する他の2グループホームと介護老人保健施設で構成する「身体拘束廃止委員会」を2ヶ月に1回開催し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。また、職員は委員会の議事録を共有すると共に、スピーチロックについても研修して、普段の声がけ時等に注意して介護にあたっている。看護師が常勤にいるため、日常の健康管理を行っており、利用者のみならず職員にも安心感を与えている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央三丁目20番30号		
訪問調査日	令和1年12月4日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者や職員は地域密着型サービスの役割を理解し、安心して充実した生活を送れるように支えており、ホーム独自の理念を作成している。	「地域との交流を持ちながら花と自然に囲まれた中で笑顔の絶えない生活を支援する」という理念を玄関に貼っており、職員は理念を十分に理解し、日々のサービス提供場面に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日頃から隣近所の人と気軽に声を掛けあったり、誕生会や敬老会、クリスマス会等で地域との交流を図っている。	町内会に加入している。年2回のホーム行事「お楽しみ会」には、女性会の方々が来所して踊りの披露をしてくれている。ホームの行事には近隣の方々に声かけをしている。また、近くの保育園で飼っている動物を見に行ったり、ホーム向かいの一人暮らしの方の除雪をしてあげる等、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部から人を受け入れる際には、利用者のプライバシーに十分に配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員に会議の役割を理解してもらい、積極的に参加を促す取り組みをしている。	運営推進会議は偶数月に開催している。利用者や家族、町内会長、民生委員、女性会、市職員、地域包括支援センター職員が委員となっており、その都度、書面で開催案内を出している。会議では利用者の状況や活動内容、行事予定等を報告し、委員から意見等してもらい、情報提供もいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市町村職員や地域包括支援センター職員が参加をして、報告や情報交換を行ったり、連携を図っている。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員が出席している。地域包括支援センターには電話やファックスで疑問や分からない事を教えてもらっている。市とは行政手続き等について、電話による相談ができる関係となっており、それぞれ連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について認識し、基本的に身体拘束のないケアを実践している。やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族等に説明を行い、同意を得ている。	2ヶ月に1回、同法人で経営する3グループホームと老健施設で構成する身体拘束廃止委員会を開催している。職員は議事録を共有すると共に、内部研修で身体拘束の内容や弊害等を繰り返し学んでいる。居室は施錠せず、玄関は簡単に開けられるワンロックの施錠をしている。無断外出に備えて、運営推進会議で話をしたり、近くの交番に協力をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の参加や実施等を通じて、全職員が虐待防止に関する理解を深める取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や全職員は内部研修の実施等を通じて、常日頃から学習をして、理解を深める取り組みをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者や家族等にホームの理念等、ケアの方針や取り組み等について説明している。利用者や家族の意見や疑問を聞き、十分に納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見や苦情を出しやすいように働きかけている。意見等を上手に表すことができない利用者については、利用者の不満や意見等を察するように取り組んでいる。	利用者や家族が運営推進会議の委員になっており、外部に意見を出せる機会となっている。玄関に意見箱を設置しているほか、家族の面会時や電話連絡時は意見等を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段のミーティングを通じて、職員の意見や提案を聞き、ホームの運営に反映させている。	ミーティングや申し送り、休憩時間等に管理者は随時、職員と話し合う機会を作っており、出された意見等をホームの運営に反映させている。異動はほとんどないが、普段から2ユニット間で1週間程、相互に他ユニットへ勉強に行っている。また、一緒に行事を行っているため、職員の異動があったとしても利用者には与える影響は最小限となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や勤務状況等を把握している。就業規則があり、守られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量や経験に応じた研修への参加等を通じて、育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は研修を通じて同業者と交流し、意見を交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の普段の行動を十分に観察し、利用者や家族と面談する等、直接話を聞く機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を受けた場合、家族の思いや希望、ニーズを把握するように努め、信頼関係を築くように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合、職員と話し合っ、その時が必要かを考えながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の喜怒哀楽を共感し、理解するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時や面会時、家族との情報交換を行うことにより、家族の思いを把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者がこれまで関わってきた人との交流を継続できるように支援している。	生活歴等の情報から、関わりがあった人や馴染みの場所を把握している。日頃の会話の中で会いたい人や行きたい場所について聞き取り、関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の人間関係を把握して、利用者が孤立しないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、相談に応じる姿勢を利用者や家族に示している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の希望や意向を把握するように努め、必要に応じて家族等から情報収集を行っている。	日々のコミュニケーションから、思いや意向の把握に努めている。意向等を十分に把握できない場合は、職員間で情報を共有して話し合い、利用者の視点に立って判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や馴染みの暮らし方を尊重するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活等を通して、職員一同、情報を共有して、支援に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の身体状況や家族の希望等に変化がないか常に見守り、観察を把握するように努めている。	利用者がその人らしく暮らし続けることができるよう、可能な限り利用者の意見や思いを聞き、全職員の意見や気づきを加え、職員間で十分に話し合っ具体的介護計画を作成している。実施期間に拘らず、身体状況の変化等があった場合は随時、見直しをしている。その際にはモニタリングを行い、必要に応じて再アセスメントを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや申し送りにて、介護日誌やバイタルチェック等の記録の情報を共有し、介護計画を見直し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に合わせ、受診や外出、買い物等の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して生活ができるよう、地域の民生委員や消防署、交番等とその都度、互いに連絡を取れるように協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向を受けながら、医療機関を受診できるように支援している。	入居時のアセスメントでこれまでの受療状況を把握した上で、家族の協力のもと、希望する医療機関を受診できるように支援している。月2回、協力医療機関の往診があり、訪問歯科による支援も行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のケアを看護師や職員と常に相談しながら行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と利用者に関する情報交換や退院に向けた支援体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の利用者が日々、より良く暮らせるよう、職員や家族、医療機関と話し合いを行うケアを整えている。	看取りには対応していないが、重度化した場合には家族や医療機関と話し合い、母体の老人保健施設と連携が取れることを伝えている。ホームには常勤の看護師がおり、毎日、健康管理のほか、便秘の時には処置等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に対応できるよう、緊急時対応マニュアルを作成し、実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いざという時に適切な避難誘導を行えるよう、住民や警察署、消防署等から理解や協力を得られるように働きかけている。また、日中及び夜間想定避難訓練も実施している。	年2回、日中及び夜間を想定して職員と利用者が一緒に火災の避難訓練を行っている。火災発生時の対応については防災マニュアルを作り、運営推進会議でも取り上げ、消防団等から理解、協力を得られるように働きかけている。また、災害発生時に備えて食料品や水、防寒用品を用意しており、災害用備蓄リストを作成して、定期的に管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の意向を配慮した上で呼びかけや声がけ対応をして、日々の確認や改善に向けた取り組みを行っている。	職員はスピーチロックについても研修して、普段の声がけ時から注意して接している。居室入口には家族からも同意を得て、氏名を表示している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の日々の関わりや家族からの情報を基に、希望や思いを把握し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが持っているペースに合わせた対応を行い、希望に沿って過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望を尊重し、月1回の理容師が訪問したり、美容院を希望した場合、家族や職員が連れて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と一緒に席に着き、会話を楽しみながら過ごしている。利用者の状況に応じて、後片付け等を行っている。	献立は、母体法人の栄養士が作成している。利用者の好み等に配慮して、ホームの職員が調理して、代替食も用意している。量や食事形態は利用者一人ひとりに配慮しており、職員も一緒に席に着いて同じ食事を摂り、食事介助や食べこぼしのサポートを行いながら、楽しい食事時間となるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量と水分補給を記録し、把握している。嚥下機能が低下した方については、調理の工夫や介助方法等を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の手入れの必要性を理解し、毎食後の洗浄や義歯の手入れ等を職員も一緒に行ったり、言葉がけをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録して、把握している。パターンに応じて誘導し、自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンに応じて、時間を見て誘導したり、利用者の様子を見て声かけをして、訴えがあった時には随時応じる等、自立に向けた支援を行っている。紙オムツの使用の継続等については、随時見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解して、食材やメニューを工夫しているほか、水分補給にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日を決めて行っているが、その時の状態を見て実施している。入浴したくない利用者については、タイミングを見計って声かけや対応を工夫している。	週2回入浴しており、浴室は家庭用のユニットバス仕様で基本は1対1の個別浴となっているが、2名で入浴を希望する人もおり、利用者のその時の状態や意向を取り入れて支援している。ユニット毎の入浴日が異なるため、柔軟に対応することができるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の出来事や疲れ具合に応じて、柔軟に休息を取り入れている。眠れない利用者については必要に応じて、家族や医療機関と相談しながら眠剤を服薬することもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が全利用者の薬の内容を把握できるように取り組みを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに合った役割や楽しみ事を促す働きかけを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の楽しみや気分転換に繋がるよう、日常的に外に出る機会を作っている。	天気の良い日は散歩したり、買い物やソフトクリームを食べに出かけたり、草取りを職員と一緒にしたりと日常的に戸外に出かけられるようにしている。希望があれば、近くのショッピングセンター等にも出かけたり、利用者の希望を叶えるため、事前に下見を行って母体法人のリフト車を借用して出かける等、支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力量や希望、家族に配慮しながら、利用者自らが小遣い等の金銭管理ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話の使用や手紙のやり取りが自由にできるよう、プライバシーに配慮しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にはカレンダーや飾り付け、季節の草花や手作りの掲示物を飾る等、居心地良く過ごせるように工夫している。	ホールは広くて明るく、ソファを置いており、小上がりもあり、利用者はゆったりとした気分で思い思いに寛いでいる。暖房はパネルヒーターとエアコンを使用しており、加湿器も使用しながら適切な温湿度を保っている。窓からは季節毎に変化する景色を見ることができ、玄関にはホームの庭に咲いていた花を飾り、利用者が季節を感じられるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個々や利用者同士で過ごしやすいよう、居間にソファや椅子を置き、思い思いに過ごせる居場所作りや環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた馴染みの物を置いてもらうよう家族に働きかけ、家庭環境と同じ空間になるように工夫をしている。	持ち込みを呼びかけているが、持ち込みが少ない場合は利用者の意向を確認しながら、職員と利用者が一緒にその人に合った居室作りを行っている。物を煩わしく感じる方もいるため、その場合は無理強いをすることなく、その人本位に考えている。また、居室の入口にはプライバシーに配慮して、長めの暖簾を掛ける等の対応をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全を考慮して、身体状況に応じて手すり等を設置したり、利用者の変化に対応して改善できるように工夫している。		